

第13回

ケアポート・田谷お祭り

かけがえのない一日を目指して

理学療法士:清家 伸二

空を見上げると、澄みきった青を舞台に柔らかみのある白が、さばやいわし、ひつじ達を演じるこの季節。目前では、和太鼓を取り巻く粋な男女が、まるで夏空に響く雷鳴の様な、激しく力強い

音を織りなしています。演武の如きその動きは、肌で感じる程の振動を生み、いやおうなしに人々の、目と耳を奪っている様です。その周りでは、暑さを忘れた柔らかな日差しが人々を包み込み、美味しそうな香りと共に、食欲を刺激する事に一役買っています。賑やかでありながらどこか穏やかな雰囲気が少し落ち着きを見せるころ、いつのまにか山肌にさえぎられた光源は、空の舞台を赤に変え木々を黒く浮かび上がらせていました。

その赤と黒のコントラストに支配されるように、主役から降ろされた会場は暗闇に転じ、少し閑散とした雰囲気が、栄枯盛衰の様な寂しさを覚えさせます。肌寒さが身を引き締め始めたころ、宵の口は祭りの静かな幕引きを促そうとしているようです。



「ドドーン ドンドン」再び響きだす太鼓の音。地下足袋に鉢巻き姿の職員が再度、人々の心にバチを打ち鳴らします。再び活気を取り戻す会場。そして花火が、秋の夜長とともに失っていた光を会場に取り戻します。太陽のように眩しいながら、月明かりの様にほのかに周りを映し出すその明かりは、人々の心に、今日の思い出を想起させている様に感じました。

こうして、たくさんの余韻を残しながら特別な1日を終える事になりました。

今年は秋祭りとして、9月25日に実施し、天候定まらぬ中において幸いお天気に恵まれました。御利用者の方々には、夏祭りの時期と比較し、お体の負担が少なかったのではと思います。また、これまでと同様に、移動が難しい方には職員が一人一人車椅子を押して会場を周りました。摂食に問題を抱える方のために、屋台のメニューは刻むなど食べやすく提供しております。そして個別対応により職員が手薄になる部分を、ボランティアの



方々が支えて下さいました。

しかし、配慮ではどうしても難しい面もあります。祭りといえば非日常的な雰囲気、家族や友人などと共有し、共に心地よい時間として過ごす事も楽しみであると思われます。他の御利用者の方と深い友人関係を築いておられる方は問題ないのですが、障害を患いコミュニケーションが難しい方々にとって、この点が欠けてしまうと、特別な日も雰囲気が違うただの一日になってしまいかねません。職員は御利用者が楽しんで頂けるよう、あの手この手で盛り上げながら対応させて頂きませんが、本来であれば共に楽しむ相手ではありません。その様な方々にとっても心地よい特別な一日となるように、ご家族・ご友人の方々に訪れて頂けることを望んでおります。それは御利用者にとっての喜びだけでなく、訪れた方々にとっても、楽しい思い出になり得ると思います。施設としましては、そのような場を提供するに相応しいお祭りとなるべく、来年も計画を練り実施していこうと思います。



作品への思い

デイケアでは、これまでも様々な壁画作りに取り組み、毎年お祭りの記念撮影の背景を飾ってまいりました。今年は従来の夏祭りを秋祭りに変更した事もあり、秋の季節が感じられる風物詩として「おわら風の盆」の壁画に挑戦してみました。「風の盆」は富山県富山市八尾地域で毎年9月に行われる富山県を代表するお祭りです。艶やかで優雅な女踊り、勇壮な男踊りが哀切感に満ちた「越中おわら節」にのり無言で町の道筋を踊りながら流していきます。哀調のある音色を奏でる胡弓の調べなどが来訪者を魅了し毎年30万人もの人出が見られるそうです。踊り子は段ボールに下絵を書きお花紙を丸めた物を貼り厚みを作り、その上から和紙を貼り仕上げました。お花紙を丸める人、貼る人、和紙をちぎる人、貼る人、利用者の方々、各々、分担し出来るところに関わって頂けました。紙を丸めながら昔作ったおだんご

デイケアでは、これまでも様々な壁画作りに取り組み、毎年お祭りの記念撮影の背景を飾ってまいりました。今年は従来の夏祭りを秋祭りに変更した事もあり、秋の季節



の事を思い出したり「早く出来るといいわねえ」「今日はここまで仕上げましょう」と皆の思いが踊り子の中に凝縮されています。背景の街並みは絵画を趣味にされるデイ職員の佐久間さんによって描いて頂きました。奥行きのある幻想的な仕上がりとなりました。街並みに思わず吸い込まれそうになりませんか。作品作りの喜びは、何かに集中する時間を持

ち、好きな事を見つける事で楽しみや充実感を味わい、自身の自信にも繋がり、また、他者との連帯感も深めてゆきます。これからも、作品作りや様々な活動を通して楽しい時間が過ごして頂けるデイケアに、していきたいと思っています。

通所 介護副主任：岩谷

祝 敬老の日

今年の敬老会は9月17日（土）に、開催させて頂きました。

当日は、天候にも恵まれ暑さが残る中、米寿、白寿、100歳を越えられたご利用者様のお祝いをさせて頂いた後、栄桂太鼓さんによる、大変迫力のある演奏



を聞かせて頂きました。皆様、その迫力に圧倒されながらも、とても楽しそうに聞かれていました。その後は、職員

による二人羽織を披露させて頂き、今年はナポリタンを上手に食べられるのか？どうなるのか？というような顔でご覧になられていましたが、最終的には、顔中ケチャップまみれになり笑い声の聞こえる中、敬老会を閉会させて頂きました。来年も楽しい敬老会を開催したいと思います。

2階 介護副主任 渋谷

火曜日の11時

熱かった夏も過ぎ、季節は秋になりました。

読書の秋、食欲の秋、運動の

秋・・・施設で暮らされている方々にとって、読書や食欲は日々の生活のなかで日常的になっている方々もいらっしゃるのですが、運動となると思いっきり体を動かす事は難しい場合もあります。そんな方々も集団リハビリの時間は同じフロアーの人達と一緒に体を動かされています。時間にして約1時間ほどですが、体を動かし、大きな声で歌を歌い、クイズに答えたりと少し違った時間を過ごされています。3階フロアーで行われる集団リハビリは毎週火曜日の11時ころ、宜しかったらご家族様の面会を兼ねて見学にいらっしやいませんか？

3階 介護 荒木

毎年の恒例行事として、施設としては最も大事になる行事である”敬老会” 多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝うことを趣旨とした敬老の日の催しです。今の時代がこんなに豊かであるのも、皆様方のご苦勞の賜物です。日本のために戦中・戦後を生きた沢山の方々の礎の物、我々の生活が成り立っています。最も時代変化の厳しい世代の方々に、少しでも楽しみと安らぎを提供できるよう。今年も取り組ませて頂いています。



二寒四温

表題の「三寒四温」。まだこの広報新聞が出る頃には早い言葉かもしれません。「冬季、3日間くらい寒い日が続き次の4日間くらいが暖かく。これが繰り返され季節が変わっていく」子供のころ聞いたときは難しい言葉なのに妙に納得と言うか胸にスッと降りて

いくのを今も記憶しています。お伝えしたかったことは最近、朝晩が冷えてきているのに真夏と同じあられもない姿で寝て、掛け布団は妻子に取られ寒いけど布団を出すのが面倒なのでそのまま我慢して風邪を引いてしまった私のようにならないように気を付けてください。 という事だったのです、、そんな人はいませんよね、、

さて、私事で恐縮ですが冬限定ではありますがマラソンを趣味としております。もう何度走ったか分からないくらい42.195kmも走りました。タイムはとても公表できるほどではありません。一般ランナーに限れば真ん中よりやや速い、まさに中の上という表現がピッタリです。



よくケアポート田谷のご利用者様や職員からも何が楽しくて走ってるの？と聞かれます。もちろん答えは「そこに道が（コースが）あるからです。」

...すみません。嘘です。そんなカッコいい理由はありません。実は今まで完走したことがないのです。もっと分かりやすく言うと42.195kmを走り続けてゴールしたことがないのです。自分なりに練習を頑張って

トレーニングを積んでも達成できないのです。レース中は脚がつったり上がらなくなったりで必ず35km付近で止まってしまいます。ですので完走！！を達成するまで前向きに努力していこうと思います。 目標があれば練習も楽しいものです。

人生の諸先輩方におこがましいですが趣味と目標があればもっと楽しいし充実した生活が送れるのではないかと思います。〇〇をやってみたいけど今更、と考えずまず職員に相談してみてはいかがでしょうか？？ もちろん出来ないこともいっぱいあると思います。 少なくとも一緒に考えることはできるので是非相談してみてください。

追記

私は海沿いをよくランニングしているのですが冬になるととてもキレイな夕焼けと富士山を見ることができます。これも楽しみの一つです。ちなみに写真は辻堂周辺です。

3 F 介護主任 森野

